

お客様が安心して製品を使用するための品質を保証する。技術者としての本質的な姿勢を身につけることができました。

諸野 朋之

Tomoyuki Morono

開発部開発三課 係長
1994年入社



初めての本格的な開発

1998年に開催されたイギリスの展示会にて発表された装置。それは巨大な印刷機械の操作盤にタッチパネルを採用したものでした。今現在、印刷機械のスタンダードとなっているこのシステム開発に、私も携わっていました。通信工学科出身でしたが、ソフトウェア開発のために独学でC言語を学び、その結果初めて完成させたのがこのシステムでした。

た。装置が完成したことに満足して

いた私は、当初この報告にも「すぐに解決できるだろう」と安易に考えていました。しかし出荷日になっても解決せず、上司から「自分の手でシステムを完成させなさい」と指示を受け、装置とともにイギリスへ。計40日間の出張の中で、現地の技術者と片言の英語を交えながら品質向上に努める一方、設計者が担当する業務の幅の広さに大変驚きました。

新しい価値を提供するシステム

主操作盤にタッチパネルを採用したシステムの開発は、KOMORIとしても初めてのチャレンジでした。オペレータのスキルに関係なく、複雑な印刷工程の簡易化を実現する。ソフトウェア開発の経験の無い私に、いわばKOMORIの将来の一端が託されたのでした。

社内に参考となる装置も無い中、試作と評価を繰り返すトライ&エラーの日々を経て、ようやくシステムは完成しました。「前例が無いものを製作した」という大きな達成感、今でも大きな自信となっています。しかしこの装置を発表する展示会の直前、大きな落とし穴が待っていました。

40日間に及ぶ海外出張

新装置が発表される日を心待ちにしていたある日、工場内での最終テスト段階にて、システムが突然フリーズするという報告を受けまし

ひとりでは解決

できなかつたトラブル
展示会終了後、どうしても解決できないトラブルが2つ生じました。ひとつは先輩のアドバイザーにより解決しましたが、もうひとつは複雑な機械要素に関わる部分。この点はハードウェア部門の技術者と連携を取りながら、ようやく解決することができました。

品質へのこだわりこそが技術者の本質

設計者は製品を完成させるだけでなく、お客様が安心してご使用いただくための品質を保証しなければなりません。それを支えているのがKOMORIです。また設計者は自発的に行動することが大切だと実感しました。自ら働きかければ、周囲の協力は必ず得られます。そのチームワークこそが、自己成長の大きな糧となるのです。このプロジェクトを通じて、技術者としての本質的な姿勢を身につけることができました。